

ふるさとふっこう

故郷復興プロジェクトだより

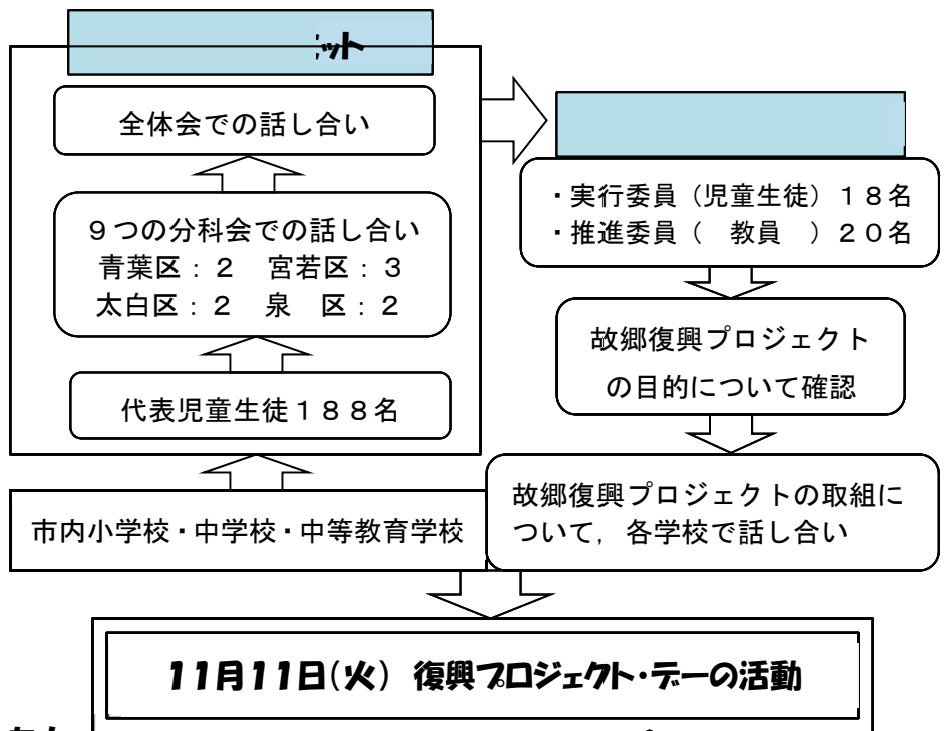
ふるさとふっこう

かいさい

故郷復興サミットが開催されました。

今年度の「故郷復興サミット」が、7月30日（水）に開催されました。震災後、その年の5月から開始された復興プロジェクトは、今年で4年目になります。私たち児童生徒は、復興プロジェクトを通して、あいさつ運動や地域清掃活動、応援旗やモザイクアート、復興ソングの作成などを行ってきました。

今年度のサミットのテーマは「手を取り合おう！ふるさとの未来へ」～つなげよう、広げよう、私たちの思い～です。震災から4年目を迎え、改めてこれから私たちが取り組んでいく故郷復興プロジェクトの「目的」について話し合うことが、今回のサミットの柱となりました。たくさんの意見が出され、活発な話し合いとなりました。その様子を本誌でお伝えします。なお、故郷復興プロジェクトの「目的」は下記のとおり決定いたしました。（担当：向陽台中学校 國分 海南子さん）



○みんなで話し合い、決めました！

ふるさとふっこう **<故郷復興プロジェクトの目的>** もくてき

○ふるさと ふっこう 故郷の未来のために

- ・「語り継ぐ」・・・震災の経験を語り継ぎ、風化させない
- ・「学ぶ」・・・命を守るために震災について知り、学ぶ
- ・「感謝する」・・・地域の人や支援していただいた人に感謝し、恩返しする
- ・「深める」・・・地域の人との絆を深める

故郷復興サミットで決定した目的を達成するため、各学校で独自の活動に取り組みます。

ぶんかかい ようす ○分科会の様子から

宮若第一分科会では、震災で大きな被害を受けた学校が多く参加しました。小中学生の立場から「震災を伝えたい」、「支えられた恩返しをしたい」、「地域を明るくする」などの意見が出されました。様々な状況にある地域の話聞き、互いに話し合いを深めていく中で「震災を風化させずに、地域を支えていく」という意見にまとまりました。自分たちのできる復興プロジェクトを広めたいと感じた分科会でした。

(担当：東華中学校 新保 瑞陽さん)

ぶんかかい ようす ○分科会の様子から

僕の参加した分科会では、「明るい笑顔ある街にしたい」「震災を知ること風化させない」など活発に意見が出されました。どの学校の意見も仙台をより良い街にしたいという思いが込められていました。

僕達が力を合わせて、仙台を離れた人達がまた戻り、そして仙台の街がさらに活気づき、復興に近づいていくといいなと思いました。

(担当：南小泉小学校 藤原 嘉人さん)

ぜんたいかい ようす ○全体会の様子から

全体会は、小中学校合わせて188校の代表児童生徒により行われました。各分科会で話し合われた内容を発表し、今後の故郷復興プロジェクトの目的について話し合いました。協議の場面では、小学生も中学生も意見をたくさんあげ、とても有意義な会になったと感じました。一人一人が各学校の代表、仙台市の代表、被災地の代表といった自覚をしっかりと持っているように思いました。報告の中では、分科会ごとに様々な工夫が見られました。例えば、宮若区2ではキーワードを上げてわかりやすく報告していましたし、泉区1では「伝える」ということに重点を置いて報告していました。このような報告・協議を通して、4つの意見にまとめることができました。

全体会の最後に「2014 私たちのアピール」という、セレモニーを行いました。会場の児童生徒全員が手をつなぎ、サミットのテーマ「手を取り合おう！ふるさとの未来へ」を大きな声で宣言しました。児童生徒が一丸となり、決意を固めることができました。

(担当：仙台第一中学校 廣田 海斗さん)

ふるさとみっこう ○故郷復興サミットにさんかかん 参加して感じたこと

今回の故郷復興サミットは、仙台市内の全ての小中学校から復興への熱意が伝わってくるサミットでした。それぞれの学校での取組を発表し、どうつなげていくかを真剣に協議して故郷仙台をまた明るい街に戻すための有意義なサミットが出来たと思います。

サミットを通して、見習いたい取組も見つかりました。特に、近隣の七北田小学校さんの「ふれあいボランティアパスポート」という制度は非常に参考になりました。

向陽台小学校は、あいさつ運動に取り組んだり、地域のお世話になっている方々を招待して感謝の会を開いたりするなどの活動を行ってきました。

今後は、全校児童が863名という大規模校なので、一人ひとりの小さな取組みが大きな力になるボランティア活動に積極的に取り組んでいきたいです。

(担当：向陽台小学校 庄子 慈人さん)





○折鶴に込めた思い

ぼくは、「復興・笑顔」という言葉を思い浮かべながら鶴を折りました。被害の大きかった地域が一日も早く復興し、笑顔が戻って来ることを願っています。

七夕飾りの制作は、お母さんたちにも手伝ってもらいました。これまで支援してくださった多くの方々に、僕たちの感謝の気持ちと元気な姿を発信することができたと思います。

(担当：立町小学校 高山 黎さん)

○七夕オープニングセレモニーに参加して

仙台市内全小中学生が心を込めて折り、まとめ合わせ飾られた約八万六千羽の折り鶴は、青く澄み渡った空にかかる虹のようでした。

私は8月6日(水)に青葉区一番町で行われた「七夕オープニングセレモニー」に参加しました。この七夕飾りは仙台市内の全小中学生により作成されたものです。私の通う山田中学校でも全校生徒で鶴を折り、有志生徒でまとめました。学校で完成した姿を見たときは、この飾りがどう飾られるのか想像できませんでした。しかし、一つにまとまった姿はグラデーションがとてもきれいで感動しました。

当日は、実行委員長挨拶の後、実行委員代表の4人が「折り鶴への思い」を発表しました。「見ていただく方に喜んでいただきたい」「感謝の気持ちを伝えたい」などの思いが伝わりました。その後、南材木町小学校による『希望の道』、第二中学校による『仲間とともに』の2曲が合唱されました。聞いてくださる方からは「きれいだね」「良い歌だね」と温かい声が聞こえました。

人通りの多いこの場所に折り鶴を飾ることができたのは、藤崎さんや地域の方々の御協力があったからではないかと思います。私たち小中学生の活動を見守ってくださっていることに感謝し、これからも復興プロジェクトに関わっていきたいと思います。

(担当：山田中学校 阿部 純さん)



仙台第二中学校の皆さん



南材木町小学校の皆さん